均建築

KINKENCHIKU:2023

11

特集 / 奈良の建築

若松均
武井元樹
飯井千尋
荻原悠真
益山直貴
三須柚花
家村しずか
宮沢麻里奈
横関あかね
渡邉優樹
青木愛斗
出雲愛洸
伊藤快青
稲葉山斗
栗野雅人
谷佳純
谷奥龍毅

11/14

JR 山崎駅集合	9：50
1. 聴竹居	10：00
	12：00
2. 興福寺	15：05
	16：05
3. 奈良国立博物館	16：15
	17：00
4. 下御門ビル	17：20
	17：35
夕食	17：45

11
15

ホテル発	8：35
1. なら 100 年会館	8：45
	9：45
2. 東大寺	10：05
	11：20
3. 正倉院	11：30
	12：00
4. 鹿猿狐ビルジング	13：30
	14：30
5. 新薬師寺	15：00
	15：30
6. 春日大社	15：45
	17：00
夕食	17：40

11/16

ホテル発	8：40
1. 浄瑠璃寺	9：45
	10：45
2. 唐招提寺	11：20
	12：50
3. 薬師寺	13：00
	14：30
4. 慈光院	14：45
	15：55
5. 成福院	16：25
	17：25
宿坊　玉蔵院着	17：30

11/17

朝食	7：00
ホテル発	8：15
1. 法隆寺	8：40
	11：10
2.Good job センター	11：30
	12：00
3. 橿原神宮	12：20
	12：50
4. 大阪芸術大学	14：10
	15：40
5. 櫻井寺	16：20
	16：50
奈良駅解散	17：50

11/14
[Tue]

聴竹居

藤井厚二

竣工年
1928 年
住所
京都府乙訓群大山崎町大山崎谷田 31

木造モダニズム建築の傑作「聴竹居」

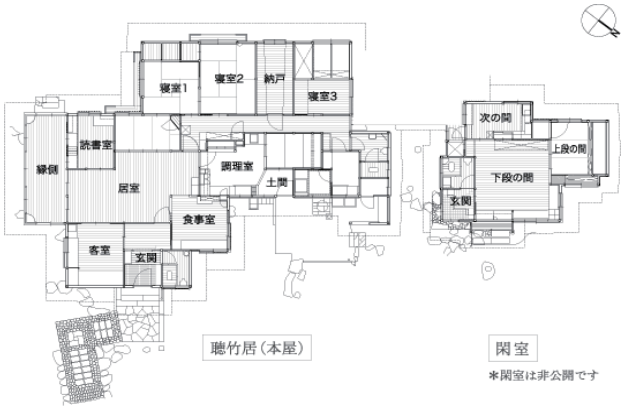
建築家藤井厚二の設計によって、1928 年に建てられた藤井の 5 回目の自邸。2019 年から 2023 年にかけて整備され、竣工当時に甦った。日本の気候風土と日本人の感性やライフスタイルに適合させ、欧米の椅子式のライフスタイルや家事労働を軽減する家電を備えた「日本の住宅」を追求した結果、実現された最先端のモデル住宅。聴竹居において藤井は「最も現代に適応する住宅」を完成しえたと判断し、5 つの自邸を通して模索は終わりを告げる。2017 年には建築家が昭和時代に建てた住宅として初めて国の重要文化財に指定された。

[料金]　入館料 1000 円
[開館時間]　9:30-16:15

聴竹居の見どころ

平面図（本屋、閑室）

現在は家族と暮らしたメインの建物である「本屋」、藤井の和敬清寂を愉しむ私的な空間である「閑室」、お客様を迎い入れた「茶室（下閑室）」の３つの建物から構成されている。今回の保存修理事業では「本屋」と「閑室」の災害復旧をはじめとした全面保存修理が行われた。



本屋で見るべき３部屋

最もデザイン密度が高く、和と洋の要素が凝縮された客室（↑）、中心に位置し、１段上がった三畳の畳間や 1/4 円によって緩やかに間仕切られた食事室と繋がる居室（↖）、柱のない三方ガラスの連続窓により男山と三川合流の雄大な景色が臨める縁側（ル・コルビュジエを意識したものか）（←）

11/14
[Tue]

興福寺

藤原不比等（ふじわらふひと）

竣工年
710 年頃
住所
〒630-8213 奈良市登大路町 48

興福寺の歴史

714 年　藤原不比等が中金堂を建立する
721 年　藤原不比等が亡くなり元正天皇が北円堂を建立する
726 年　聖武天皇が東金堂（とうこんどう）を建立する
730 年　光明皇后が五重塔を建立する
734 年　光明皇后が西金堂（さいこんどう）を建立する
813 年　藤原冬嗣（ふじわらふゆつぐ）が南円堂を建立する
1998 年「古都奈良の文化財」として世界遺産に登録される

奈良時代になると興福寺は朝廷の役所となり、国が建立に関わるようになった。また、奈良時代は四天寺、平安時代には七大寺の 1 つとなり、興福寺は大きな寺社勢力として比叡山延暦寺と共に「南都北嶺」と呼ばれている。

※南都→興福寺、北嶺→延暦寺、当時の大きな寺社勢力を指す

[料金]　大人・大学生 500 円
[開館時間]　9:00-17:00

興福寺の見どころ

興福寺伽藍の中心中金堂

【年代】平成時代（平成30年10月再建落慶）
【構造】寄棟造、単層裳階付き、本瓦葺
【規模】正面37.0m、側面23.0m

中金堂（ちゅうこんどう）

中金堂は興福寺伽藍の中心になる最も重要な建物。
「柱」
中金堂を支える66本の巨大柱。直下の66個の礎石の内64個が天平時代のものであり、焼失する度に創建時の礎石の上に再建されてきた。また、約10mの巨大柱の原木は国では調達する事が出来ず、中央アフリカから輸入したものが使われている。
「瓦」
中金堂の屋根は、大きな屋根の下にもう1層小さな屋根が付いた2層構造が特徴。使用した瓦は27種71000枚、重量230ｔ。

五重塔

【年代】室町時代
【指定】国宝
【構造】五重塔婆、本瓦葺
【規模】高さ 50.1m、初層 : 方三間 8.7

日本で 2 番目に高い塔。創建当初の位置に再建され、三手先斗拱（みてさきときょう）と呼ばれる組物を用いるなど奈良時代の特徴を随所に残していますが、中世的で豪快な手法も大胆に取り入れている。創建当初の高さは約 45m で、各層には水晶の小塔と無垢浄光陀羅尼経が、また初層には四天柱の各方向、東に薬師浄土変、南に釈迦浄土変、南に阿弥陀浄土変、北に弥勒浄土変が安置されていたと言われ、当時日本で最も高い塔でした。

北円堂

【年代】鎌倉時代
【指定】国宝
【構造】八角円堂、本瓦葺
【規模】八角一面 4.9m、対面径 11.7m
【付属】旧内陣小壁 8 組、銘札 1 枚

日本に現存する八角円堂の内、最も美しいと賞賛されているこの堂は興福寺伽藍の中で西隅に位置している。華麗で力強く、組物に三手先斗拱が使われるなど、創建当初の姿をよく残しており、内陣の天井には中央の大蓮華より光を放つ天蓋が輝き、組物間の小壁ある彩色された笈形が特徴的。

11/14
[Tue]

奈良国立博物館

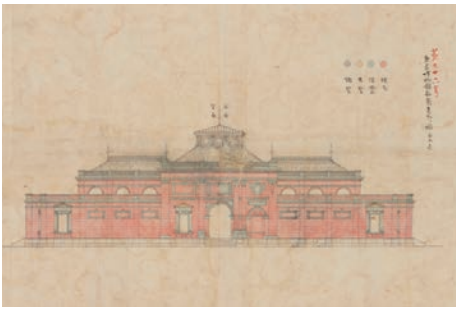
片山東熊

竣工年
1894 年
住所
奈良県奈良市登大路町 50

帝国奈良博物館の誕生―設計図と工事録にみる建設の経緯―

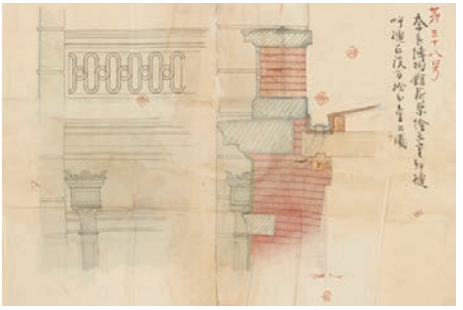
帝国奈良博物館（奈良国立博物館）は明治 27 年（1894）に竣工し、翌年 4 月に開館しました。設計は明治時代を代表する建築家で当時宮内省内匠寮技師だった片山東熊が担当し、奈良県に誕生した最初の西洋建築として知られています。片山は工部大学校造家学科の第一期卒業生で、京都国立博物館明治古都館（明治 28 年）、東京国立博物館表慶館（明治 41 年）、迎賓館赤坂離宮（明治 42 年）などの作品を遺しましたが、帝国奈良博物館はこれらに先立つ若き日の代表作として貴重です。近年おこなわれた設計図と工事録の分析により、この建物の建設の経緯があらためて詳しくわかってきました。明治 24 年（1891）に起こった濃尾地震を経験して堅牢性を重視したこと、窓からの採光の工夫、雨仕舞への配慮、さまざまな要因による工事の遅延、予算不足の問題などから、国内での事例がまだ少なかった博物館建築を生み出すための関係者たちの苦労がうかがわれます。

[料金]　一般　700 円　大学生　350 円
[開館時間]　9:30〜17:00



新築色分ヶ図　百分壱

正面昇降口矩計弐拾分壱之図

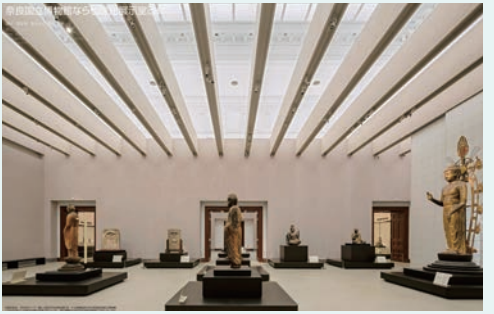


新築絵画室軒樋呼樋取設方拾分壱之図

帝国奈良博物館本館表昇降口雛形

奈良国立博物館なら仏像館展示室改修 ―既存躯体を尊重する明るい仏像展示空間―

重要文化財のため外装、躯体はもちろん、内壁、天井に触れることは許されない。そこで既存壁の内側に新しく内壁を立て、ルーバー状の梁で支えることで、入れ子状で、無柱の内部空間を新しく設えている。装飾が施された既存天井を明るく顕在化させる一方、可変性の高いスポット照明により、展示替えに即応して、仏像にとって、最も効果的な照明涸出ができるものとしている。今回の改修では、中央の大きな 3 部屋はガラスケースを全て撤去し、免震台に載せられた仏像群を細部まで鑑賞しやすいかたちで点在させた。また、高齢者にも配慮した明るい展示空間が求められたため、新設の壁、梁は全て伝統色である淡い桜色（桜鼠）の左官仕上げで塗り上げた。奈良吉野の満開の桜霞のなかで仏像群群と出会うイメージである。東側エントランス部分は逆に、自然光の入射を押さえた暗めの参道として設え、道行の先にやわらかな光につつまれた「仏の世界」が広がることを意図している。飛鳥時代から鎌倉時代に至る優れた仏像を明治、昭和、平成と引き継がれた「器」で鑑賞するといった「時代の継承」を強く意識している。(新建築 2017 年 1 月)



11/14
[Tue]

竣工年
2003 年
住所
奈良県奈良市下御門 3-1

下御門ビル

妹島和世

伝統的街並みのなかに突如として現れる箱

2003 年に竣工した妹島和世設計の店舗兼用住宅。「ならまち」という歴史的な建物が並ぶ街並みの地区の一角にあり周囲とのコントラストが効いているため、アルミの外観が存在感を放つ。建築と場所の繋がりや調和、連続性というものを意識的に思考している妹島和世がどのようにこの場所を読み取り、最終的になぜこのような答え方をしたのか考えることでならまちのより深い部分まで知れるのではないか。

[料金]　無料
[開館時間]　各店補の営業時間による（最大 11 時〜24 時）

MEMO

11/15
[Wed]

なら 100 年会館

磯崎新

竣工年
1999 年
住所
奈良県奈良市三条宮前町 7 – 1

身体的ーリアルとハイパー

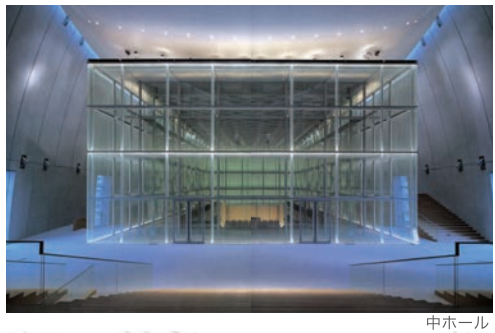
「闇」と「虚」
「闇の空間」というエッセイで、私は空間の図式を次のように整理した。

ー人間のノーマルな知覚の対象となる三次元的な実体の空間をその中心の軸にすえるとすれば、一方の極に「闇」のイメージにつらなる深層心理学的・魔術的・象徴的な空間の系列があり、他の極に「虚」のイメージに連なる記号的・抽象的・多元的な空間の系列がある。・・・・中心の軸から押し広げていって到達するこの二つの概念が、さらにその裏側で結び合ったものになっているのかどうかは、いまはよくわからない。

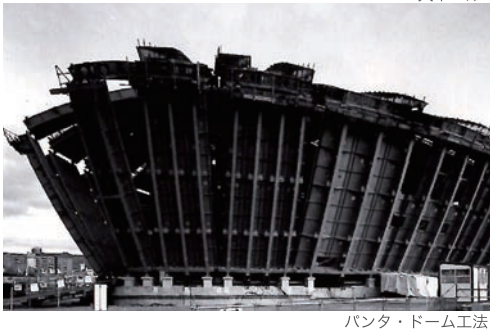
「闇の空間」(『空間へ』1964 より)

[料金]　入館料　無料
[開館時間]　9:00~17:00

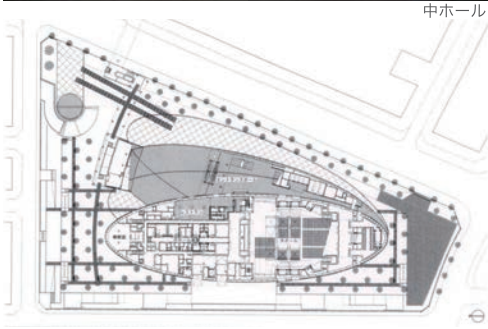
大ホール



中ホール



パンタ・ドーム工法



1F 平面

・・・・感知される幾桁もの身体的なスケールの断絶感が、可触的なレベルを超えて、ハイパーな状態を生みだす。手で触れることのできない。それは身体の内部に知覚された特殊な像(イマージュ)を生みだす。内触覚的な空間が立ちあがる。

なら 100 年会館はそのアップスケーリングされた存在感によってあくまでハイパーたろうとしている。あえていわゆるヒューマンスケールに配慮していない。ディテールの意図的な省略がこれを生みだす手がかりである。その処理は内部空間にまでおよんでいる。中ホールは室内楽コンサート専用としてデザインされているが、殻のなかに二重のガラス壁の箱として収められている。ここでも細部の諸略が徹底される。そしてゆらめくように透過する光が、内部空間における内触覚的な知覚を増幅するだろう。大ホールでは「闇」がたちこめる。そのなかで多焦点の演出がなされるように期待される。中ホールはその半透明性によって、「虚」の空間となる。ここには音しかない。半可触的で、アンリアルな空間様態につつまれて、その音が知覚されるだろう。

ここにも「闇」と「虚」はある。それがひとつの物体としての受容器(コンテナー)のなかに押しこまれている。身体をもった観客もまたこの受容器(コンテナー)のなかにはいる。その身体を介して、リアルと同時にハイパーな知覚を内部に像(イマージュ)として立ちあがるだろう。

(新建築 1999 年 2 月)

11/15
[Wed]

東大寺

俊乗坊重源

竣工年
758 年 ,1195 年 ,1709 年
住所
奈良市雑司町 406-1

国宝：東大寺大仏殿（金堂）寄棟造（桁行 5 間・梁間 5 間）本瓦葺、一重裳階付・正面軒唐破風付

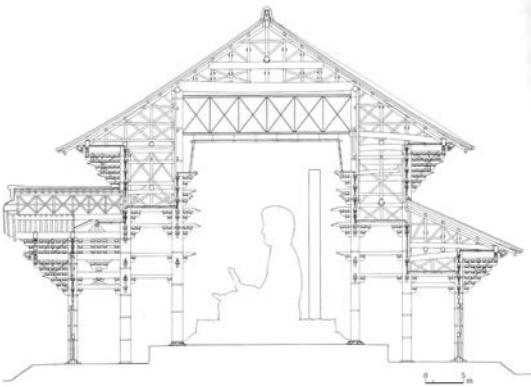
和様をベースとした大仏様の代表格

東大寺は，平城京という首都のシンボルとして奈良時代に建設されたもので、その後も単なる一寺院を超えて，社会的に大きな意味をもつモニュメントであり続けた。奈良時代の 758 年に創建された初代の大仏殿は、2 度の焼失を経て江戸時代の 1709 年に再建された三代目が現存している。大仏殿は、高さ 18m にも及ぶ巨大な大仏を納めるため、他ではみられない大空間を必要としている。初代大仏殿は、正面 85m・側面 50m・高さ 45m にも及び、この巨大な建築を建設するため、遠く兵庫県からも巨木が調達された。

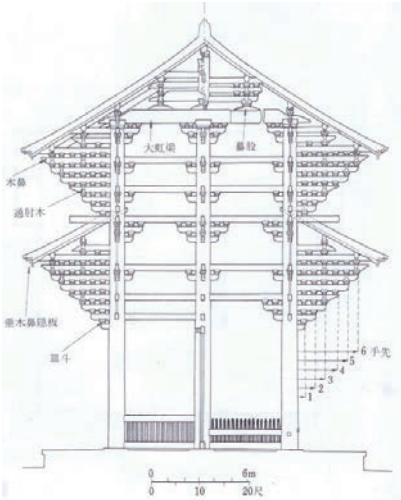
[料金]　無料
[開館時間]　8:00 ～ 17:00

東大寺の見どころ

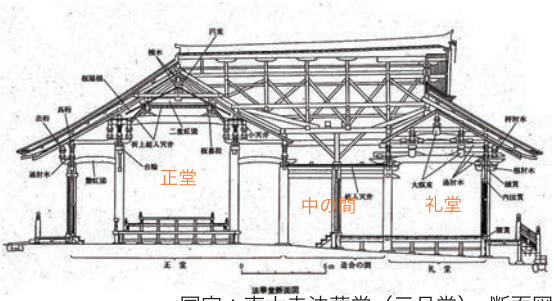
組物を含んだ革新的な建築構法



国宝：東大寺大仏殿（金堂）　断面図



国宝：東大寺南大門　断面図



国宝：東大寺法華堂（三月堂）　断面図

初代大仏殿が 1180 年に焼失すると、翌年には再建事業の責任者である東大寺大勧進職に重源が任命された。重源は二度も中国に留学した経験をもつ僧侶で、彼は天皇家や貴族、あるいは新たに覇者となった源頼朝の支援を受けて再建事業に取り組んだが、奈良時代のような巨木を得ることは不可能であったために、初代とは異なる方法で大仏殿を再建することを決意する。ここで中国から導入されたのが大仏様という新様式である。

重源は、中国人技術者の陳和卿を起用すると同時に，現在の兵庫県や三重県に別所と呼ばれる寺院を建設し。そこで新しい様式を試した後に、東大寺再建に着手した。

重源が関与した大仏様の建築のうち、東大寺南大門 (1199) は現存している。南大門は、柱と大虹梁を除くほとんど全ての部材が同じ寸法（380mmx210mm) で統一されている。こうした材料の規格化は，加工手間数の減少と短時間の施工をねらったもので，迅速な大量生産に非常に適合した方法である。

大仏様は構造と建築生産の両方で非常に合理的なものといえ、限られた材料で短期間に東大寺再建を果たさなければならなかった状況によく合致していた。

三井渉『建築と都市の歴史』p52

11/15
[Wed]

正倉院

竣工年
756 年前後？
住所
〒630-8211 奈良県奈良市雑司町１２９

正倉院のはじまり

正倉院の宝物は奈良時代、聖武天皇が亡くなり、悲しみにくれていた妻の光明皇后が夫の愛用の品々を東大寺の大仏に捧げたことに始まる。その愛用品をはじめ、大仏が完成したときの儀式で使われた道具、当時の役所の文書などを含め、約 9000 件の品々が、正倉院宝物として今に伝わっている。1200 年余り前の宝物が、土に埋もれず、建物内で大切に守られているのは世界的にも珍しいことである。
現在、宝物は昭和時代にそばに建てられたコンクリート製の東宝庫と西宝庫に移されて保管されている。

[料金]　無料
[開館時間]　10:00-15:00

正倉院の見どころ

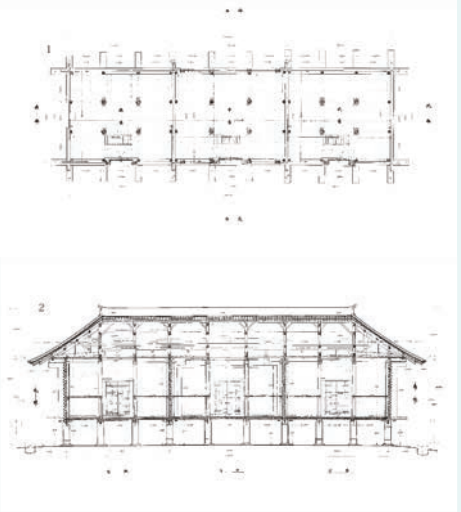
建築的特徴

檜造り、単層、寄棟本瓦葺きで、高床式に造られている。間口約 33m、奥行約 9.4m、床下約 2.7m、総高約 14m の大きさをもち、床下には直径約 60cm の丸柱が自然石の礎石の上に並ぶ。

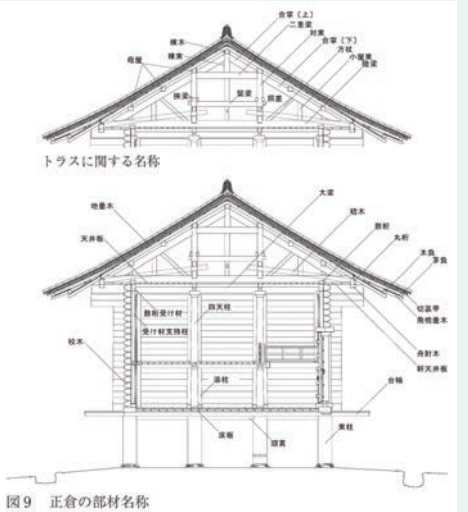
倉は三倉に仕切られ、北 (下記の平面図で右) から順に北倉、中倉、南倉と呼ばれている。北倉と南倉は、大きな三角材 (校木) を井桁に組み上げた校倉造りで、中倉は、北倉の南壁と南倉の北壁を利用して南北の壁とし、東西両面は厚い板をはめて壁とした板倉造りになっている。

各倉とも東側（下記の図面で下）の中央に入口があり、内部は二階造りとなっている。

平面図・立面図



部材名称



11/15
[Wed]

竣工年
2021 年
住所
〒630-8221 奈良県奈良市元林院町 22

鹿猿狐ビルヂング

内藤廣

路地を巡り出会う、触れ、学び、味わう奈良。

細い路地が入り組んだ迷路のようなならまち元林院町で 300 有余年商いを続けてきた中川政七商店による、新しい集いの場ができた。中川政七商店の鹿、猿田彦コーヒーの猿、毟つねの狐の 3 匹が集うため「鹿猿狐ビルヂング」と名づけられ、古きを学び進化し通づけることを共に志す。さらに、まちづくりの拠点となるコワーキングスペース「JIRIN」、中川政七商店の 300 年の歴史を紐解く「時蔵」、創業から続ける手編み手織り麻のものづくり体験のできる「布蔵」などが併設されている。

配置図

1F 内観

[料金]　入館料　無料
[開館時間]　9:00-21:00(テナントによる)

「目前の物事に夢をまぜたとき、永遠の一部になる。」

全ては「機能や経済とは違う次元で、建築にはそれ自身にしか回収できない価値がある」と仮定した。そしてそれに生命を与えるのは、個人の記憶の奥底にある「夢や希望や憧れ」なのではないか。それが「構築する意志」としての冷たい「建築」に働きかけ、生命を与え、熱くする。(「ノスタルジーの行方」新建築 2107、「建築を熱くするもの」新建築 2110 より）思想家の鶴見俊輔のエッセイの文に「目前の物事に夢をまぜたとき、目前の物事は永遠の一部になる。」とあり、和歌や俳句や詩は、まさに言葉そのものだが、建築の設計そのものに読み替えることもできる。
「目前の物事」を「設計するための与件」とし、「夢をまぜる」というのを建物に「夢や希望や憧れ」を与えることと捉えることもできる。太古より人間は、ただの構築物に何らかのイメージを与えようとしてきた、と考えれば、これも「永遠の一部」となる。「構築する意志」だけでは生きたものにならず、そこに夢をまぜることで、永遠の時間の中でわずかな間なのかもしれないが「生きること」を許される、と理解することもできる。(内藤)

座標軸をクラフト的につくる

敷地は奈良でも猿沢池の近くの古い街並みの一画にあり、景観を損ねないようにするため、外側の壁面線や屋根は周囲に合わせて 3 階を後退させたり、屋根にはいぶし瓦桟瓦葺きを用いている。建物が密集する地域に建ち、建設にあたり大きな部材が使えないため、主なスパンを 2 間 (3,600mm) グリッドの鉄骨造とし、木造に近い太さの細い柱と小さめな梁で構成している。

1F 平面図

千年の景色

鹿猿狐ビルヂングの 3 階は新しい事業を興そうと志す人たちのための道場のような場になりつつある。広々と開かれた開口部のすぐ目の前に瓦の屋並みがあり、その向こうに猿沢池があり、左手には興福寺の鬱蒼とした杜木立が見え、国宝の五重塔が聳え、若草山のなだらかな斜面が見える。この中には「夢や希望や憧れ」が詰まっている。

3F から見た景色

11/15
[Wed]

新薬師寺本堂

創立者　光明皇后

竣工年
747 年
住所
奈良県奈良市高畑町 1352

光明皇后　祈りの空間

新薬師寺は光明皇后が夫の聖武天皇の病気回復を願って天平19 年に建設された建物である。文献によると創建当時は七堂伽藍と東西二基の塔が立ち並ぶ大寺だったが、現在は本堂が唯一残っている建物である。2008 年には本堂から西へ約150m のところで東西約 68m の巨大な基壇とその南に幅58m の階段が発掘された。この巨大な建物が金堂と考えられ薬師如来が七軀とそれぞれに脇侍が 2 軀ずつ祀られていた。新薬師寺本堂では薬師如来坐像と十二神将立像が祀られていて、旧境内の中で一番東に位置する建物である。

[料金]　大人 600 円
[開館時間]　9:00 ～ 17:00

新薬師寺本堂の見どころ

薬師如来像と十二神将像を引き立てるつくり

桁行七間、梁間五間で本瓦葺きの入母屋造りの建築である。十二神将は円形配置になっていて、瓦を敷いた土間の中央に巨大な円形の仏壇が設けられている。このような形式の仏堂は珍しく、十二神将像を配置するために作られた空間はいくつか特徴的な工夫が見受けられる。というのも新薬師寺の「新」という漢字には霊験新たかなという意味があてられている。それは神仏の効果が明らかにあらわれる様子を願ったもので、単に見るためにつくられた場所ではないことがわかる。それが建築的工夫からも読み取ることができる。

暗がりの中で願う

円形の壇をおさめるために前後に広い柱間が取られる。そして、柱間の上に渡された梁の上には、束のない扠首組の小屋が架かる。柱上の組物も簡略な舟肘木ですっきりとした構成。余分なところをまったく感じさせない骨組みが、空間全体の印象を引き締めている。

新建築 0511 臨時増刊号「日本の建築空間」

またこの建築には窓がない。そのため入口の扉をあけ放つことがなければ、暗がりの中で仏像と向き合うことになる。光明皇后はこうした暗がりの中でどんな景色を見ようとしたのか。簡素で暗い空間の中にその意図が隠されている。

11/15
[Wed]

春日大社

設計者不明

竣工年
768 年
住所
奈良県奈良市春日野町 160

朱塗りの世界遺産 春日大社

神山である御蓋山（春日山）の麓に、国家の安泰と国民の繁栄を祈念したのが始まりとされている。20 年に一度、御社殿を美しくする「式年造替」が行われ、境内には朱塗りの艶やかな社殿が建ち並ぶ。春日山原始林が春日大社と一体となって古代の信仰を伝えているという文化的背景から「古都奈良の文化財」の一つとして 1998 年にユネスコ世界文化遺産に登録された。本殿は、柱間約 1.9m で方形の方 1 間の春日造が 4 棟建ち並ぶ。

春日造り：切妻造、妻入り。屋根の上に千木と堅魚木が置いてある。身舎の前に向拝と呼ばれる片流れの屋根がついており、井桁状に組まれた土台の上に柱が立つ。

[料金]　回廊内特別参拝 500 円　/　国宝殿 300 円
[開館時間]　7:00〜17:00

春日大社の見どころ

約 3000 基の燈籠

春日大社には、石燈籠が約 2000 基、釣燈籠が約 1000 基あり、平安時代末期から今日に至るまで、春日の神を崇拝する人々から家内安全や商売繁盛、武運長久、そして先祖の冥福向上などの願いを込めて寄進されたもの。
社寺の参道に燈籠を並べる風習は春日大社が発祥である。本来、燈籠は神仏を照らすために社殿やお堂の前に設けるが、春日大社では大宮と摂社・若宮を繋ぐ参道〈御間道（おあいみち）〉を神前同様の聖域とするため、鎌倉時代末期から石燈籠が立ち並び始めたそう。

豆知識

ほとんどの燈籠には「春日社」と刻まれているが、約 2000 基あるうち 15 基だけが「春日大明神」の文字になっているそう。
3 基見つけると“長者になれる”との言い伝えがあるので、ぜひ探してみて。

宝物殿から国宝殿へ

春日大社の参道に、木々に守られるようにして建っていた〈春日大社宝物殿〉。晩年の谷口吉郎が手がけた 1973 年竣工のモダニズム建築だが、耐震面や収蔵スペースの不足が問題視されていた。この建物が式年造替に合わせて増改築された。
元々の宝物殿は、高さの異なる２つの切妻屋根の棟が雁行し、それを同じく切妻屋根の棟で繋いだ H 型の建物だった。改修では２棟を繋ぐ棟の屋根を延長し、〈鼉太鼓ホール〉を新設した。夕刻にはホールから洩れる光が暖かく境内を照らす大らかな行燈となる。既存の建物でピロティとなっていた入口部分は、壁で囲いエントランスホールとなり、耐震面の強化にも。

11/16
[Thu]

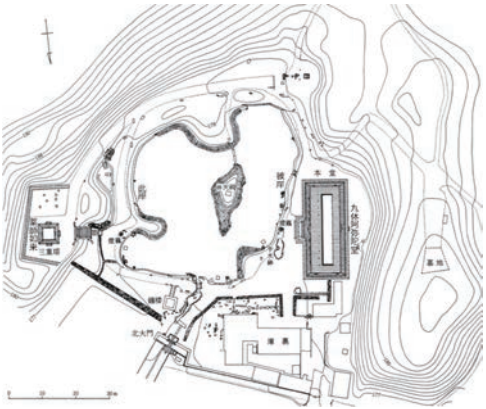
浄瑠璃寺

義明上人　（開基）

竣工年
1047（永承２年）
住所
京都府木津川市加茂町西小札場 40

九体の阿弥陀仏を安置した「九体仏堂」

寺の創立を伝える唯一の史料である『浄瑠璃寺流記事』（じょうるりじ るきのこと）によると、創建年は永承２年 (1047)、義明上人が阿知山太夫重頼の支援を受けて、薬師如来を本尊とする本堂を建立した。流記事には「本堂の屋根を１日で葺いた」とある。浄瑠璃寺は地方豪族の小さなお寺として発足した。寺名の「浄瑠璃寺」は、薬師如来の浄土・東方浄瑠璃世界に因んで付けられたと言われている。

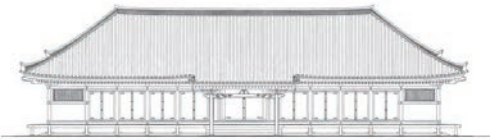


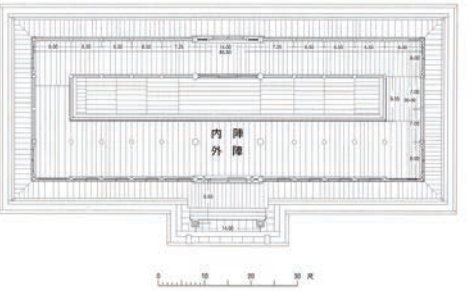
[料金]　入山料無料　本堂拝観料 400 円
[開館時間]　9：00 ～ 17：00

浄瑠璃寺の見どころ

本堂

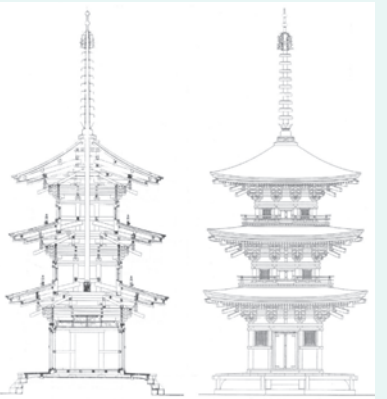
浄瑠璃寺本堂は寄棟造、本瓦葺き。桁行11間、梁間4間。堂正面の柱間装置は、左右両端間は上半を連子窓、下半を土壁とし、他の9間は板扉・格子戸としている。隅の柱上に舟肘木を用いるほか、外周の柱上には組物を用いない、簡素な外観となっている。　縁側の下には亀腹が築かれている。屋根は現状本瓦葺きだが、元は檜皮葺で、本瓦葺きとなったのは寛文6年（1666年）である。本堂正面の向拝も江戸時代後期に付加されたもの。





三重塔

三重塔は三間三重の檜皮葺き、総高53.60尺(16.081m)。初重周囲には高欄の無い縁が、二重、三重には縁高欄が巡らされており、中央間には板唐戸が、脇間には連子窓が設けられている。組物は三手先で、軒は二軒繁垂木(木材の間隔が狭い垂木)、軒桁を支える中備は、中央間のみ間斗束（けんとづか）が置かれている。浄瑠璃寺三重塔は初重内部に心柱や四天王柱といった柱を設けず、心柱は二重目から立っている。このように初重内部に柱を設けない構造としたのは、創建当時よりの本尊である薬師如来坐像（重要文化財）を祀る為だった。一辺3m、天井高2mの初重内には、扉の釈迦八相、壁面の十六羅漢図など、装飾文様と共に壁面で埋められている。



11/16
[Thu]

竣工年
759
住所
奈良県奈良市五条町１３−４６

唐招提寺　金堂・講堂

鑑真

奈良時代の和様建築をいまに伝える遺産

唐招提寺は、南都六宗の一つである律宗の総本山。
多くの苦難の末、来日をはたされた鑑真大和上は、東大寺で５年を過ごした後、新田部親王の旧宅地（現在の奈良市五条町）を下賜されて、天平宝字３年（759）に戒律を学ぶ人たちのための修行の道場を開いた。「唐律招提」と名付けられ鑑真和上の私寺として始まった当初は、講堂や新田部親王の旧宅を改造した経蔵、宝蔵などがあるだけだった。金堂は８世紀後半、鑑真和上の弟子の一人であった如宝の尽力により、完成したといわれる。現在では、奈良時代建立の金堂、講堂が天平の息吹を伝える、貴重な伽藍となっている。金堂 (奈良時代)・講堂 (奈良時代)・鼓楼 (鎌倉時代)・宝蔵 (奈良時代)・経蔵 (奈良時代) の５棟が国宝建造物に指定されている。

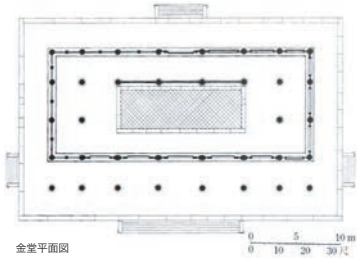
[料金]　1000 円
[開館時間]　8:30 ～ 17:00（受付は 16:30 まで）

唐招提寺の見どころ

金堂（国宝）

金堂は屋根が寄棟造の本瓦葺。正面・奥行が桁行七間・梁間四間金堂は正面間口の中央が幅約 4.7 メートルだが、両端が次第に狭くなって幅約 3.3 メートル。最も中心的な仏堂。周囲に庇をめぐらして、前面は吹き放しで、独立した柱が立ち並ぶ。内部は中央が折りあげられた天井が張られている。遠景は、親しみやすく穏やかな表情だが、近づくにつれてつからず良い存在感を放つ。天空に跳ね上がるような美しい屋根のフォルムになっている。
堂内には、中央に修行の寺にふさわしい厳しい顔の盧舎那仏坐像、左には高さ 5・36 メートルで最古最大の千手観音立像、右にはどっしりとした薬師如来立像など国宝の仏像が安置されている。

金堂断面パース



金堂平面図

鼓楼（国宝）

鼓楼は厨子に仏舎利を収めた金亀舎利塔を安置している。鼓楼は西側の対称位置にある鐘楼に対して鼓楼と言われているが、太鼓ではなく、鑑真和上が唐（中国）から請来した仏舎利を安置して舎利殿と言われている。鼓楼は二階建ての楼造で屋根が入母屋造の本瓦葺。正面・奥行が桁行三間・梁間二間。

講堂（国宝）

仏堂でもあるが、もともと説教や講義の場の性格を持つ。平城宮の東朝集殿を移し講堂にしたもので、いまに残る唯一の平城宮の建物。移築したときに、切妻造から入母屋造にし、天井を張り、窓や出入口などを設け、宮殿の建物の美しさを偲ぶことができる。堂内には、鎌倉時代につくられた、くっきりとした目鼻立ちの重要文化財弥勒仏坐像がある。入母屋造の本瓦葺。講堂は正面・奥行が桁行九間・梁間四間です。

11/16
[Thu]

薬師寺

天武天皇の発願

竣工年
天武 9 年（680），養老 2 年（718），〈730 年 東塔 創建〉

住所
〒630-8563 奈良県奈良市西ノ京町 457

薬師寺の歴史

薬師寺は、680 年に、天武天皇が皇后・鵜野讃良皇女（後の持統天皇）の病気回復を祈って発願。しかし、竣工前に天武天皇は 686 年に没し、後を継いだ持統天皇とその後の文武天皇に伽藍の建築・整備が受け継がれた。
710 年（和銅 3 年）、平城京遷都に伴って、薬師寺も移転した。飛鳥に残った本薬師寺はしばらくの間は存続していたが、やがて廃寺となる。その後、度重なる火災や戦にあい、奈良時代からの建築物は東塔のみとなる。
そして、20 世紀になると復興事業が進み、伽藍が再建された。

[料金]　団体料金　1,600 円（特別公開含）
[開館時間]　8:30-17:00(受付は 16:30 まで)
[拝観可能場所] 金堂，大講堂，東院堂，玄奘三蔵院伽藍，東塔・西塔（特別公開）

薬師寺の見どころ

釈迦の生涯を残す 東塔・西塔

日本初の双塔式伽藍として有名な薬師寺東塔・西塔。東塔は唯一薬師寺創建当初から唯一現存し、平城京最古の建造物として知られる。西塔は 1528 年の享禄の兵火により焼失し、1981 年に再建された。

お釈迦様のの生涯の重要な場面を八つに分けた「釈迦八相」のうち、因相の四想が東塔に、果相の四相が西塔に収容されている。塑像で作られ安置されているが、多くが損傷していた。彫刻家 中村晋也氏が新たに造像され、令和 5 年に安置された。

東塔の相輪上部の水煙は、他の塔ののものと比べてデザイン性に富んでいる。水煙は 1300 年間変わることはかった「白鳳の水煙」が、2019 年に初めて「平成の水煙」に新調された。

▲ 因相の四相（東塔）

▼ 果相の四相（西塔）

薬師寺とお写経

薬師寺建立を発願された天武天皇は、お写経の功徳による国家安穏と万人豊楽を願い、大蔵経のお写経をなさり、薬師寺とお写経の歴史は深い。

ほとんどが失われていた薬師寺の白鳳伽藍であったが、昭和 43 年（1968）に管主だった高田好胤和上は、「物で栄えて心で滅ぶ高度経済成長の時代だからこそ、精神性の伴った伽藍の復興を」と訴え、お写経勧進による白鳳伽藍復興を始め、平成 30 年で 50 周年を迎えた。西塔、中門、回廊、大講堂、食堂と白鳳伽藍の主要な堂塔はおおよそ復興され、いにしえの大伽藍がよみがえっています。

11/16
[Thu]

慈光院書院

片桐石州

竣工年
1672 年
住所
奈良県大和郡山市小泉町

人工の丘に浮かぶ屋根

寛文３年（１６６３）小泉藩二代目藩主の片桐石見守貞昌（石州）が、初代藩主である父貞隆（慈光院殿雪庭宗立居士）の菩提寺として自分の領地内に、大徳寺１８５世玉舟和尚（大徹明應禅師）を開山に迎え建立した臨済宗大徳寺派の寺院。

　寺としてよりも境内全体が一つの茶席として造られており、表の門や建物までの道・座敷や庭園、そして露地を通って小間の席という茶の湯で人を招く場合に必要な場所ひと揃え全部が、一人の演出そのまま三百年を越えて眼にすることができるということは、全国的に見ても貴重な場所となっている。

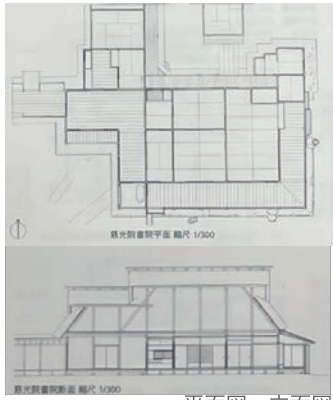
さつき一種類の丸い刈り込みと、数十種類の木々の寄せ植えによる刈り込みを用い、座敷の前だけを独立した物とするのではなく、寺の敷地全体を庭園として設計し、周囲の風景・景観と調和するように構成された庭。

禅寺の庭園にしては石をほとんど用いずに、色々な種類の木々を用いた庭にされている

[料金]　入館料 1000 円
[開館時間]　9:00~17:00

のも、茶席の庭として季節ごとの風情を楽しめるようにしたものである。
内部の造作を見ると造作はすこぶる簡素で、長押を通さず、棹縁天井とし、軒先のまばら垂木は丸太と角を交互に並べるなど透きの要素を見せる。
茶室は片桐石州の代表的な席で、二畳台目の隣にさらに二畳の控えの間を設けることで、中の襖を外して四畳台目のような使い方をしたり、懐石の配膳場所にしたりと、使い勝手をかなり考えた席だと言える。全国に現存している茶室の中で、時代・作者・形状等が証明できるものの中では最古の席と言われている。

茶室


平面図・立面図

慈光院の中で最も特徴的で参拝者に深い印象を与えるのが、一之門から茨木門に続くこの石畳の参道である。
うっそうと茂った木立と切り立った土手、さらに道を折れ曲がらせていることによって、足を踏み入れた途端山の中に入り込んだような気分にさせてくれる。
この狭く暗い参道を通ることで、次の茨木門をくぐったときの広く明るい雰囲気への変化がはっきりとして、石州の人を迎える時の心憎い演出を感じずにはいられない。
郡山からここ小泉へと続く街道（現在の県道９号線）の、九頭上池（くずかみいけ）の横を過ぎ富雄川を渡るあたりから、蓮池越しに緑に囲まれた慈光院が見えてくる。
この池は農業用の灌漑用水であるが、昔から「慈光院蓮池」と呼ばれており、石州も庭や境内の一部と考えていたと思われる。

11/16
[Thu]

竣工年
1970 年
住所
〒636-0923 奈良県生駒郡平群町信貴山

成福院

村野藤吾 (宿坊のみ)

成福院

信貴山成福院は信貴山真言宗の大本山であり、信貴山内の中心に位置し、歴史ある信貴山において伝統と近代性を兼ね備えた塔頭寺院です。大和国信貴山は、聖徳太子のご開山による日本最初の毘沙門天王の霊山である。毘沙門天は寅年・寅日・寅刻に出現され、七福神の随一、商売繁昌、福徳開運、諸願成就のご利益あらたかな福徳の守護神です。以来、信貴山の毘沙門天王は寅に縁のある神として信仰されています。本堂からは大和平野を一望におさめ、信貴山頂にある空鉢護法堂からは広大な大和盆地を見下ろす事ができます。成福院宿坊からは本堂や灯火が美しい参道の灯篭、千手の公孫樹（せんじゅのいちょう）と呼ばれる樹齢約五百年の大銀杏を眺める事ができます。「融通殿」に祀られる「如意宝珠」は、そもそも信貴山の本尊である毘沙門天王が棒げられる宝塔の内にあるもので、無量の財宝を涌出すると謂われています。

[料金]　希願料 1,000 円、7,700/ 人～(素泊まり)、11,880/ 人～(1 泊 2 食付き)
[開館時間]　9:00-17:00(入堂・入館は 16:45 まで)

成福院信徒会館 (宿坊) の見どころ

1970 年、大阪万博への訪問宿泊客を受け入れるために建てられた、村野作品では唯一の宿坊。全て和室の構成となり、地階に大浴場、1 階はロビー等、2 階に客室、3 階は大広間。外観、客室、階段の手摺り、大広間の天井などが村野建築としての見どころ。日々の掃除と毎年の大掃除による手入れが行き届き、コンクリート打ち放しの壁、絨毯、建具の木枠や柱などに竣工当時の素材感を今も残る。その中でも照り起りをもつ銅板葺き屋根は、宝塚カトリック教会でみせたような妖艶な曲線ではないが、端正な姿形にまとまり、曲線で構成された屋根の入母屋破風の軒先はアールに、箕甲部分は鋭角的なとめ方になっている。

その他の見どころ

融通殿

朱色に塗られた「融通殿」では融通まつりや八千枚護摩供など成福院の年中行事の多くが執り行われ、日々の本堂（朝護孫子寺本堂）における御祈祷（大般若祈祷）の後には必ず、当院独自の祈祷を「融通殿」において執り行っている。

寅大師

昔より大切なお金のことを「寅の子」と云う。この修行大師は別名「寅大師（とらだいし）」と言われ、傍らに「撫で寅」があり、足を撫でれば出ていったお金が直ぐもどる、頭を撫でてはボケ封じ、牙を撫でては立身出世、尻尾を撫でては延命長寿のご利益があります。

鎮宅霊符神

成福院表門より入って左にある祠。鎮宅霊符神（ちんたくれいふじん）は、古代中国では北斗七星を神格化した宇宙の護法神とし、密教では妙見菩薩に例え、吉凶災福や大富貴、子孫繁栄、方位を司る神としてご利益があります。

11/17
[Fri]

竣工年
607 年（推古 15 年）
住所
奈良県生駒郡斑鳩町法隆寺山内 1 の 1

法隆寺

推古天皇・聖徳太子 (開基)

現存する世界最古の木造建築群

推古 15 年 (607)、聖徳太子と推古天皇により創建されたと伝わる。「日本書紀」には、天智 9 年 (670) に伽藍を焼失したとの記述があり、8 世紀初頭に現伽藍が完成したと考えられる。兵火や天災にはあわず、太子信仰に守られたこともあって、現存する世界最古の木造建築群として往時の姿を今に伝えている。参道は松並木になっており、参道を抜けたところに南大門がある。境内は西院と東院に大きく分かれ、国宝･重要文化財の建築物だけでも 55 棟に及ぶ。

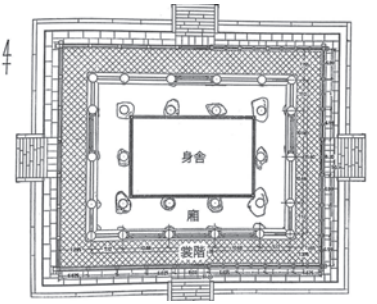
この寺は法隆寺式伽藍配置と呼ばれる配置になっており、寺の中心である西院伽藍には、五重塔と金堂が並び、中門と大講堂をつないで回廊が囲む。東に向かって東大門を抜けたところに夢殿のある東院伽藍が見える。

[料金]　1,500 円
[開館時間]　8：00 ～ 16：30

法隆寺の見どころ

法隆寺金堂

法隆寺金堂は身舎（もや）が桁行３間、梁間２間でその四周に廂（ひさし）が巡る。通常、４面廂の建物は身舎と廂でのみだが、さらに外側に裳階（もこし）が一周廻る。身舎と廂が中心で裳階は付属的なものである。葺き材も、本体の身舎・廂武部分が瓦葺きであるのに対し、裳階は板葺きである。さらに柱の形も異なり、身舎や廂の柱は太い丸柱だが、裳階の柱は細い角柱を使っている。太い丸柱は、下から３分の１くらいが最も太くなる膨らみのある柱（胴張り）を使用している。

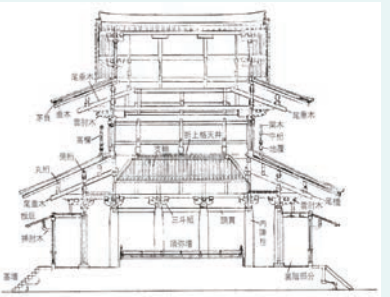


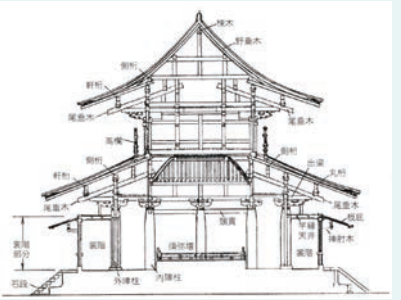
細部

内部では身舎が折上天井で一段高くなる。廂は平たい組入天井で、裳階は簡素な棹縁天井である。

組物にも特徴があり、雲斗・雲肘木と呼ばれる。通常、大斗・巻斗・肘木を用いるが、法隆寺金堂では肘木と巻斗が組み合わさった特殊な形である。

垂木は特に主要な建築では地垂木と飛檐垂木の２つを載せて軒の出を大きくすることが多い。しかし法隆寺金堂は垂木を一本しか使っていない。一方で大きな軒の出を持っている。奈良時代、律令的なものが入った以降の建築では基本的に２軒にするのがお約束であったが、それとは違う傾向が確認できる。





11/17
[Fri]

竣工年
2016 年
住所
奈良県香芝市下田西 2 丁目 8-1

Good Job ! Center KASHIBA

大西麻貴＋百田有希／ o+h

ランダムに配置された木壁が多彩な居場所を生む

アートとケアの視点から多彩なアートプロジェクトを実施している市民団体「たんぽぽの家」の新しい活動拠点となる施設企業との連携などにより障がいのある人の個性や創造性を生かした仕事の開発に取り組む。構造としても機能する木壁がランダムに配置され，ワンルームの中にさまざまなスケールのスペースをつくり出す。レーザーカッターや 3D プリンターなどのデジタル工作機を備えた工房や物流倉庫の他に，ギャラリー・ショップ，カフェなどを併設し、地域にも開かれた場として計画されている．

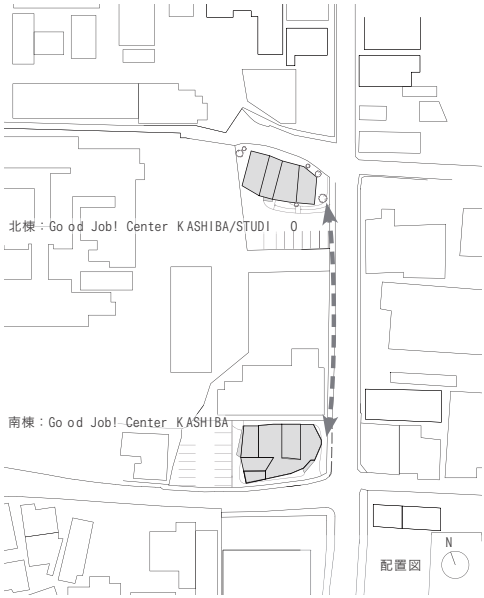
[料金]　無料
[開館時間]　10:00 ～ 17:00（カフェ・ストアは 11:00 ～）

Good Job！Center KASHIBA の見どころ

それぞれの居場所があるワンルームの空間

いろんな性格の人たちが思い思いに過ごしている様子がそのまま空間の魅力になっていて，それぞれの人が気持ちよく過ごせるたくさんの居場所があって，それが建築の佇まいそのものになっているような建築をつくりたいと考えた．
結果的に壁や床、屋根などがバラバラと集まったような建築となった。個人の居場所がありながらも、全体としてみんなの気配を感じることができるワンルームの空間である．いろいろな向きに配置された壁が，人の動きや光の反射，視線を導き，歩きまわると次々と立体的に風景が展開して行く．

２つの建物を行き来する



商品の開発や制作、その商品の流通拠点として、また地域に開かれた交流の場でもある南棟「Good Job!Center KASHIBA」と、落ち着いて創作活動のできる北棟「Good Job! Center KASHIBA / STUDIO」の 2 棟からなる。利用者はその日の活動に合わせ 2 つの建物を行き来することで、まちの風景を変えるきっかけにもなっている。

11/17
[Fri]

橿原神宮 (かしはら)

明治天皇

竣工年
1890 年
住所
〒634-8550 奈良県橿原市久米町 934

日本建国の地と記された橿原

初代天皇・神武天皇が即位したといわれる畝傍山東南麓の橿原宮址に明治天皇により明治 23 年に創建された。創建以前は畝傍山の山麓周辺には上代の天皇陵や往昔の遺跡が残っていたが、東南麓の橿原宮址には一切の痕跡がなく、畑地となっていた。しかし、明治 10 年代の調査により、神武天皇の御陵が橿原のこの地に定められ、これを顕彰しようという動きが高まる。民間からも宮址碑の建立や橿原神宮の創建の出願が相次いだ。明治 22 年に明治政府が神社創建を認可し、社殿として京都御所の内侍所 (賢所) と神嘉殿の 2 棟が下賜さ

神武天皇
「神日本磐余彦火火出見天皇」

[料金]　拝館料　無料
[開館時間]　日の出から日没まで

境内の見どころ

本殿

安政２年に建造された京都御所の内侍所で明治天皇より下賜された。
入母屋造りの檜皮葺の建物で、2015 年に葺き替え工事が行われた。

幣殿

祭典の際に神饌をお供えし、祝詞を奏上する切妻造りの社殿で、屋根に千木と鰹木が設えられている。

内拝殿

毎年２月 11 日「建国記念の日」に行われる例祭「紀元祭」などの橿原神宮の祭典や結婚式等の特別参拝が行われる拝殿のため、通常は入れない。

外拝殿

橿原神宮の拝殿は内拝殿の左右に回廊をつけ、前方へ外院斎庭 (約 970 坪) を囲んで外拝殿を置く「二重拝殿型」で大規模神社の祭祀を考え、様々な規模や形式の祭典に柔軟かつ効果的に対応できるよう昭和 10 年代に導入され、近代に建築された神社に適用されたも

鳥居

形状は明神鳥居で４基全てが素木造りで、昭和 15 年に台湾の阿里山産檜で築造されたが、老朽化に伴い、令和２年に修築され、紀元 600 年の意義を伝えるため、痛みの少なかった笠木・島木・額束部分はそのまま使用し、新旧材が融合した鳥居となっている。

11/17
[Fri]

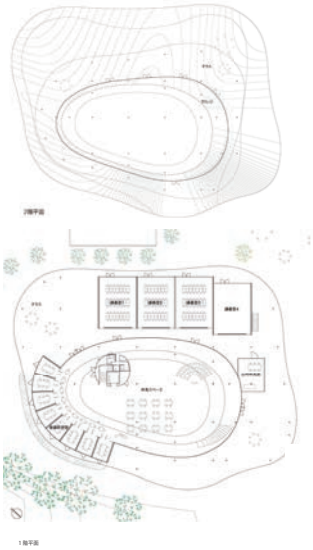
竣工年
2017 年
住所
大阪府南河内郡河南町東山４６９

大阪芸術大学 アートサイエンス学科棟

妹島和世

建築と環境が一体となった風景

延床面積 3176.28 平米で、地下 1 階から 2 階までの 3 層構造。山をカットし造成されてできた平坦な敷地に、丘の一部のように感じられる地形と連続したランドスケープのような建築の計画。具体的には、山のような形をした一枚の屋根を 3 枚にわけ、隙間から風邪や光を取り入れ、周囲の環境と連続し、混ざり合った、明るいワンルームを作っている。天井には周囲の建物が柔らかく反射し、中と外が混ざり合った風景が広がっていく。スラブは緩やかな突起を持ちながら、柔らかくカーブし、一部地面に着地し、敷地と権利くとが連続的に繋がっている。



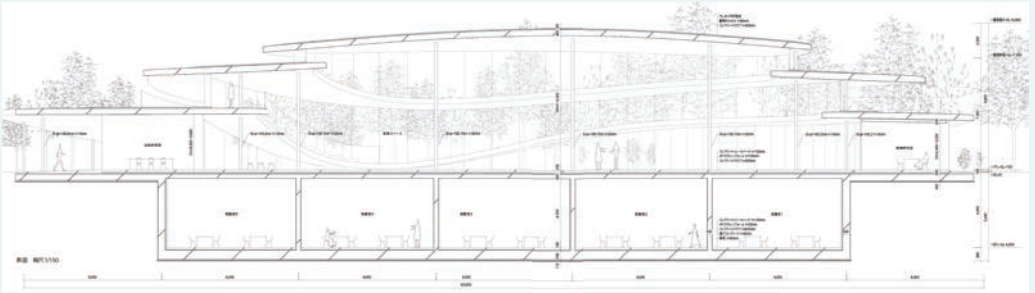
[料金]　無料
[開館時間]　9:00-17:00

大切にした３つのこと

第１のポイントは外観の印象。丘の上の立地で、坂を上ってくると最初に目に入る建物になるので、建物が主張しすぎないように丘と一体化させ、環境と調和させたいと考えた。「土地に合わせてここをカーブさせよう」と試行錯誤しているうちに、自然と有機的なフォルムになっていった。
第２のポイントは、建物が“開かれている”こと。内と外との自然なつながりを重視して、いろんな方向から出入りできて、内側からはさまざまな方向に外の風景が見えるように工夫した。
第３のポイントは、交流の場になること。アートサイエンス学科以外の学生も気軽に立ち寄れて、新しい出会いが生まれる空間になることをめざしている。公共施設でも住宅でも、私が理想とするのは、「公園」のような建物。公園は、遊ぶ子ども、語らうカップル、お弁当を食べるサラリーマン、本を読む高齢者などいろんな人が、他者の気配や自然を感じながらも自由にくつろげる、開かれた空間。建物であっても、つねに視線の先に緑や人の動きがあり、それが心地よく感じられる空間にしたい。「公園のような建物を」という願いが、この新校舎にも少なからず反映されている。

ローザンヌ連盟工科大学ラーニングセンターとの違い

妹島は「ローザンヌのカーブは外に対しては切れているんですよね」と振り返り、あれ以降、外に対しても繋がっていける建築を考えていたと話す。
「今回の新校舎は水平状に広がっていく空間。フラットスラブ（構造床）は縁側のような役割で、内と外を繋いでいます。それを太さの異なる円柱で支え、屋外にも耐震構造のためのブレースを配した。それによって内部に広々としたワンルームを生み出すことができました。大阪芸大の立地は周囲に豊かな自然がある。ガラス張りのこの校舎では、そうした自然の移り変わりも、室内にいながら感じられると思います」と述べた。（casa,2017.12）



11/17
[Fri]

竣工年
1967 年 (947 年 -957 創建)
住所
奈良県五條市須恵１丁目３−２６

櫻井寺

村野藤吾 / 桜井康成

村野藤吾の唯一設計した寺

須恵の城主・櫻井康成が天慶 5 年（942）に身内間の所領争いで誤って母親を討ってしまったことから入道し、天暦年間（947-952）に建てられた。幕末に天誅組の本陣となり、明治維新の先駆けといわれる出来事に関係した寺である。現在再建された鉄筋コンクリート造りの本堂や山門、鐘楼などの建築は 1967 年に昭和を代表する建築家のひとり・村野藤吾による設計。また境内にある庭園はその翌年に庭園史家・森おさむにより作庭された。旧櫻井寺の古い本堂は箱根芦ノ湖のほとりに移築、レストランとして今もなお活用されている。

[料金]　無料
[開館時間]　9:00〜17:00

櫻井寺の見どころ

日本の伝統的な軸組みをコンクリートにより表現

村野らしい優美な曲線が、コンクリートで形作られている。特に鐘楼（写真左）は、高床かつ柱梁のみで屋根を支えることにより、全体として素材に囚われない軽さを演出している。

明治維新の魁（さきがけ）となった天誅組　ゆかりの寺院

時代背景

天誅組の変は、1863 年に大和国で尊王攘夷派の志士が挙兵した歴史的事件です。この事件はすぐに鎮圧されましたが、その後の動きは幕府倒幕の動きを加速させた。天誅組の本拠地となったのが櫻井寺だった。

ことのあらまし

天誅組の変は、1863 年に大和（奈良県）で尊王攘夷派の激派志士による挙兵事件で、攘夷の実行をめぐって重要な役割を果たした。8 月 13 日に朝廷は大和行幸（大和へ攘夷を祈願するための外出）を決定しそれに伴い、尊王攘夷派の吉村虎太郎を中心に天誅組を結成し、倒幕を図ろうと大和挙兵を計画。（孝明天皇の後ろ盾を得て、天誅組からしたら、尊王攘夷を主張できる格好の機会だった。命令があったわけではなく勝手に結成。やる気に満ち溢れていた。）8 月 14 日に京都を出発し、大坂、堺、河内を経て大和に向かい、五条代官所を襲撃、代官らを殺害。8 月 17 日、幕府直轄地の大和国五条に到着した天誅組は、幕府代官所を包囲して代官鈴木正信（源内）に降伏を要求。鈴木正信らは殺され、代官所は焼き払われる。8 月 18 日に主将中山忠光や諸役を指名し、代官所支配地を朝廷直領化し（これも勝手に）吉村虎太郎らは郷士を動員して挙兵を促進した。しかし、会津藩と薩摩藩を中心とした公武合体派（天誅組からしたら敵勢力）が朝廷の実権を握るためにクーデタを起こし、大和行幸が延期に。さらに朝廷から天誅組を暴徒として追討せよという命が下された。天誅組は状況が最悪の中高取城を攻撃したが敗北。その後諸藩兵との戦闘を続けたが 9 月 16 日にもともと尊王の志が高い大和国十津川郷士の離反に遭い、壊滅的な敗北を喫した。

Day 1

1. 聴竹居
2. 興福寺
3. 奈良国立博物館
4. 下御門ビル

Day 2

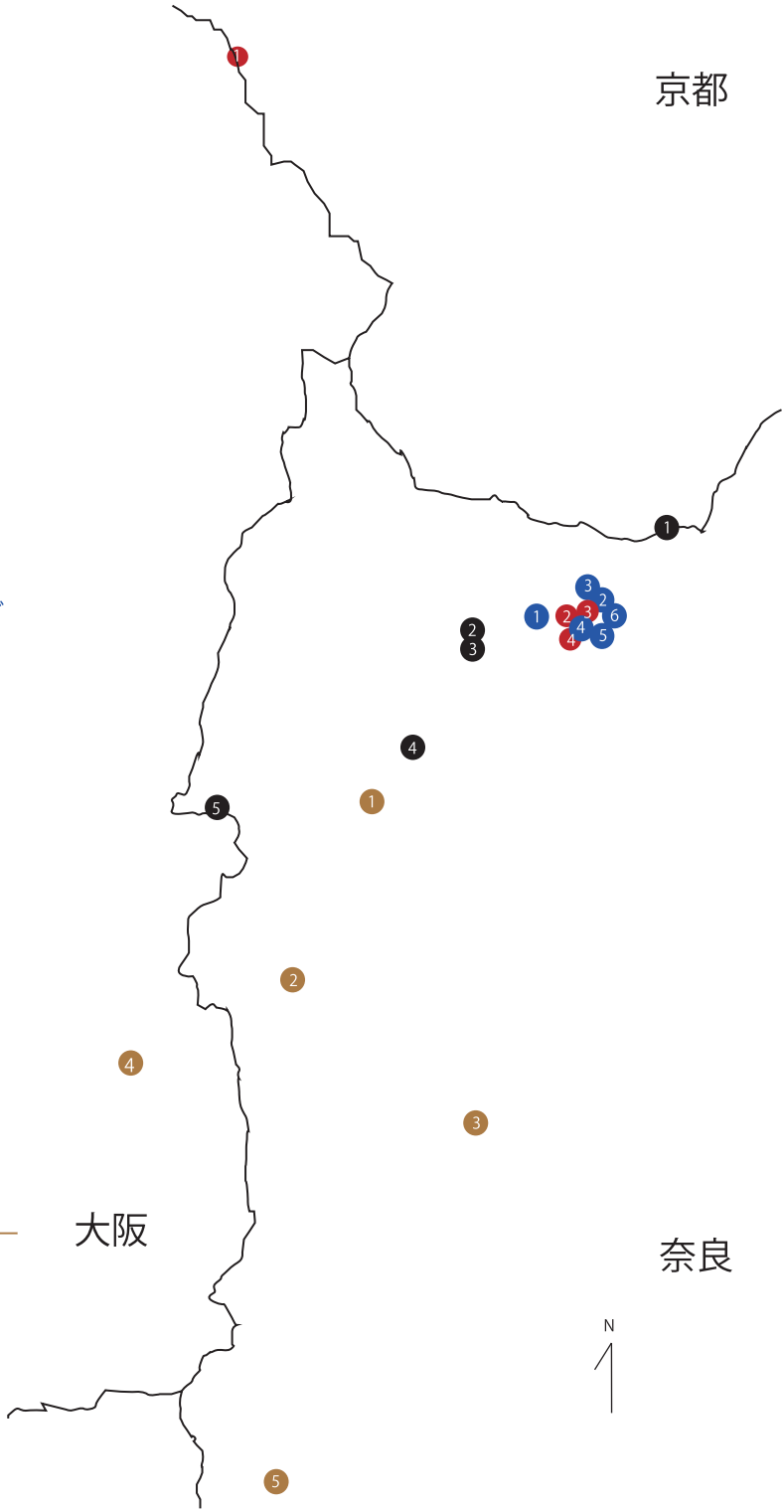
1. なら 100 年会館
2. 東大寺
3. 正倉院
4. 鹿猿狐ビルジング
5. 新薬師寺
6. 春日大社

Day 3

1. 浄瑠璃寺
2. 唐招提寺
3. 薬師寺
4. 慈光院
5. 成福院

Day4

1. 法隆寺
2.Good job センター
3. 橿原神宮
4. 大阪芸術大学
5. 櫻井寺



MEMO

MEMO

均建築　2023 号
2023 年 11 月 9 日初版発行
発行：若松研究室
https://www.wakamatsulab.com/